

はじめに

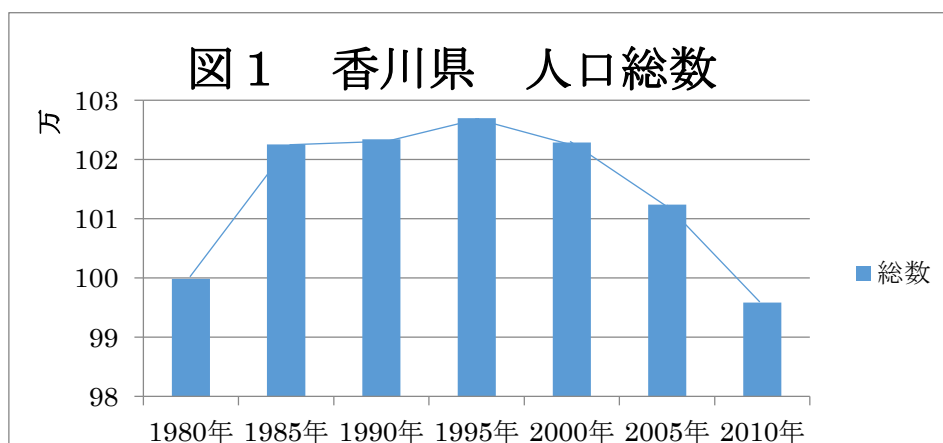
地方にとって、人口流出は地域活性化を促進するために避けては通れない問題である。その対策として、香川県は子育て世代をターゲットに人口増加を図っている。しかし、それだけでは不十分である。実際、若者が大学進学を機に都市圏へ移動し、若者層の人口は減少し続けている。子育て世代に定住してもらうことも大事だが、これからの未来を担っていく高校・大学生を対象とした暮らしやすい環境作りを、より積極的に行っていくべきではないか。

そこで、データの調査やアンケートをすることにより、香川県の現状を理解した上で地域の魅力を発見し、それをどのような方法で若者に理解してもらおうか考えてみることにした。

## 第一章 若者における現状

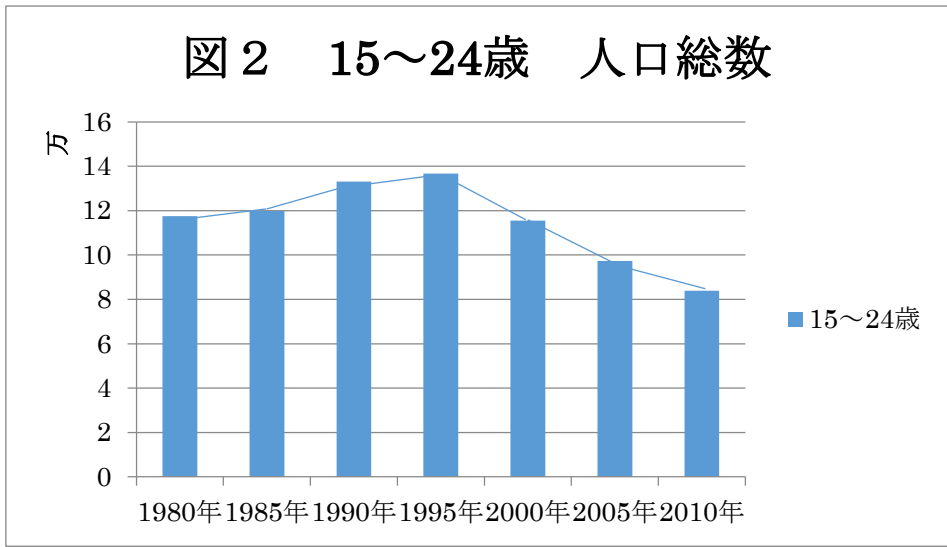
### (1) 香川県の総人口と若者の人口

まず、香川県の総人口（図1）からみてみる。1980年～1995年までは、横ばいしながらも増加している。1995年には総人口が約103万人となり、過去最大となった。しかし、2000年代に入ると徐々に減少を始め、2010年には総人口が100万人を切ることになった。



次に、若者 15～24 歳の人口（図2）をみてみる。こちらも 1980年～1995年まで増加している。1995年には約14万人となり最大の値を記録したが、総人口と同じように 2000年代から減少を始めている。

図2 15～24歳 人口総数



このようなことから、若者の人口が減少すると総人口も減少していくことが分かる。総人口を増やし香川を活性化させるためには、若者の人口を増やすことが必要不可欠となる。

(2) 都道府県で見る香川の大学

東京の方が、大学数も学生数も多いとは思っていたが、割合としても大きな差が出た。特に注目すべき点は、100万人あたりの大学数であろう。東京は100万人あたり約10校であるのに対し、香川は100万人あたり約4校しかない。香川は、全国的に見ても人数に対して大学が少ない。

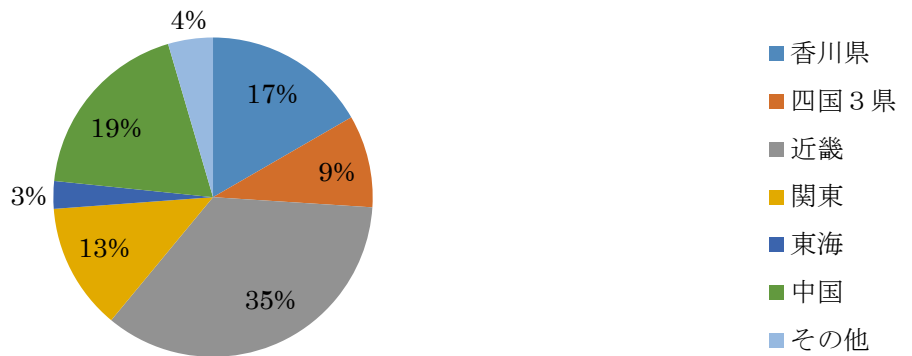
表1

	大学数/100万人	学生数/人口 (%)	学生数/大学(人)
東京	10.44	5.53	5.296
香川	4.04	1.02	2.521

(3) 香川出身者の大学進学先

図3から、平成26年度の香川県大学進学者4,513人のうち、3,761人が県外に進学している。その割合は、約83%である。県外進学者のうち、もっとも進学者が多いのは、近畿地方の1,579人で割合としては約35%である。近年の都会志向が香川にもみられることが分かる。

図3 香川出身者の大学進学先（平成26年）

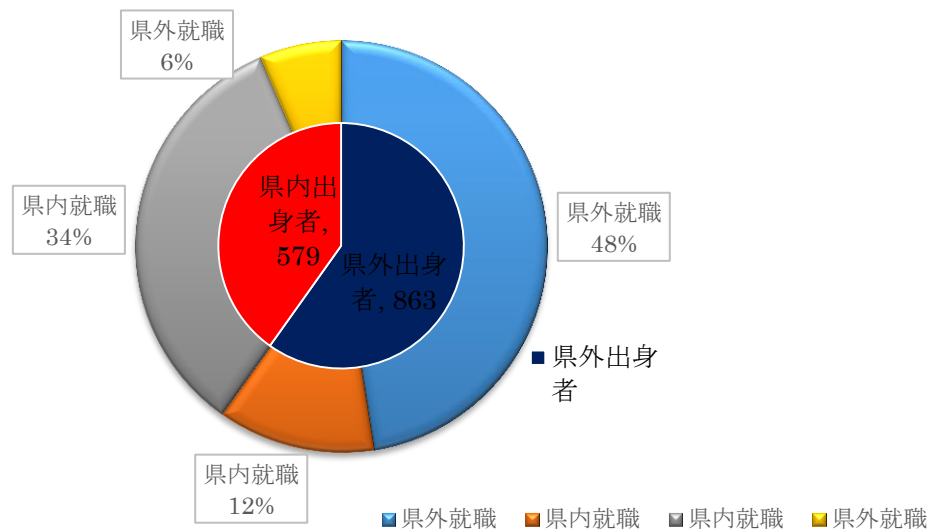


（4）香川県内に在籍する大学生の就職先

図4から、県内大学からの県内就職は約46%である。県内出身者579人のみの内訳は、県内就職486人（県内出身者の83.9%）、県外就職93人（16.1%）県外出身者863人のみの内訳は、県内就職178人（県外出身者の20.6%）、県外就職685人（79.4%）となっている。

比べてみると、県内の大学に進んだ人の方が県内に就職する割合が高い。よって、県内大学に進学してもらうことが最重要だが、上記にある通り、香川は大学数が都市圏より圧倒的に少なく、また近年の都会志向により、今のままでは若者が定住するには厳しい環境にある。県内出身者が県内大学に行くと県内就職率が高くなるが、現状では定住化は厳しい。

図4 香川県内の大学生の就職先（平成26年）



## 第二章 地方の魅力

### (1) 県外に行く理由

現状を打破するために、若者世代である高校2年生34人にアンケート調査を行った。

質問内容は以下である。1. 県内と県内、どちらの大学に進学予定か、2. なぜ、県内に進学するのか（複数回答可）、3. なぜ、県外に進学するのか（複数回答可）、4. 香川県にあればいいと思う学部はあるか。

表2

Q1	県内	県外
男性	4	12
女性	8	10
合計	12	22

Q2	合計
近隣にあるから	9
安いから	5
学びたい学部があるから	2
親の勧めで	2

Q3	合計
自立した生活を送ってみたい	17

から	
県内に学びたい学部がないから	8
県内より可能性が広がるから	8
学力に合った大学が香川にないから	3
親の勧めで	1

<b>Q4</b>	
ある	14 (理学部、文学部、心理学部、 薬学部、地学)
ない	20

表2から、男子の方が女子よりも県外志向が強いことが分かる。県内の大学に進学する理由については、学校が近隣にあるからという意見が多かった。また、県内の大学に進学する理由については、自立した生活を送ってみたいから、学びたい学部が県外にしかないからという意見が挙げられた。多くの学生が“自立したい”と答えることから、親元を離れて新しい環境で暮らしてみたいという高校生の本音が読み取れる。また「県内に学びたい学部がない」という意見から、ここでも学生と大学のニーズがマッチしていないことが分かる。県外に出て行った学生に、県内で就職してもらおう（Uターン）ことに魅力を感じてもらえる取り組みを行って行かなければならない。

## (2) 実施すべき取り組み

香川県は、人口減少対策に多大な予算をかけている。その活動として、移住体験ツアー、雑誌による情報発信、希少糖やオリーブを用いた観光・もの作りの推進等が挙げられる。だが、移住体験ツアーも雑誌による情報発信も、香川への移住に興味があれば一切効果がない取り組みだ。

県外の大学へ進学すると、どうしてもその地域の企業の情報が多く入ってくる。そんな状況で、わざわざ香川の企業のことを調べるだろうか。香川で就職してもらうためには、就職の時期になって慌ててアピールするのでは他県に勝てない。将来地域に密着してもらえるように、高校・大学時代から企業見学、職業体験などに取り組

んでいくことが重要である。「すでに活動を行っている」という企業も多いだろうが、本当に十分に活動しているのだろうか。1回の見学・体験で、企業のことをどれだけ理解してもらえるだろう。複数回のアピールをしなければ、記憶にも残らない。

また、県外出身者に香川で就職してもらうためにはどうすればよいか。私は、若者が日頃よく使うSNSや動画サイトを有効的に利用すれば良いと思う。例えば、近年のドラマによる中小企業への関心、方言ブームにあやかり、香川に住んでいる社会人が讃岐弁で企業や周辺環境についてのアピールを投稿するのだ。広い土地を活かした事業や、あたたかい人間関係に焦点を当て地方の魅力を宣伝する。

香川の広報がインターネット上にもあるのだから、それを利用すればよいのではないかという人もいるだろう。しかし、アンケートをとると約半数の人が広報を見たことがないという。せっかくアピールしても、見る人が少ないのでは意味がない。また、SNSや動画サイトなら無料である。香川についての情報を発信すれば、誰かが見てくれる・知ってくれるという甘い幻想を持つのではなく、若い人の立場に立った発信方法を考えていかなければならない。

おわりに

減少し続ける香川の人口を増やし、活性化させるためには、やはり若者を増やすことが重要である。

県内の大学に進学すると県内で就職する割合が増えるという傾向があるが、現状は学生と学生のニーズが合っていないため、県内の大学を志望している学生は少ない。

また、広報で香川のアピールを行っているがアピール対象である学生は広報していることをあまり認知していないという現状も浮かび上がってきた。

大学数や規模、企業数ではどうしても都市圏には勝てない。なので、数で勝負するのではなく質ややりがいといった、都市圏にはない地方の魅力を若者に効果的な方法によってアピールすることが重要である。

このテーマを調べ終わって、どうして県外から香川に就職したのか疑問に思った。次回、機会があれば調査してみたい。

※引用

図 1 ・ 図 2

<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson13/t-page.asp>

図 3 ・ 図 4

[Kantei.go.jp](http://Kantei.go.jp)

表 1

都道府県データランキング [uub.jp](http://uub.jp)